

■ 農業近代化の祖

石川 理紀之助

いしかわ りきのすけ

出身地 秋田市

1845年（弘化2年）～1915年（大正4年）

秋田県庁しゅっしに出仕。農業行政たずさに携わり、種苗交換会しゅびょうの創設等そうせつに努力する。帰村後、強い意志すくと優れた計画性せつとくりよくに支えられた説得力のある指導で農民の自立を促しうなが、農業の近代化に大きく貢献こうけん。明治期の代表的老農たたと称えられる。



年譜

- 1845年 秋田市きゅうせいに生まれる。旧姓・奈良なら、幼名・力之助ようめい りきのすけ。
- 1865年 石川長十郎ちやうじゅうろうの養子となる。
- 1872年 秋田県庁租税課そぜいか しゅっしに出仕する。
- 1878年 種苗交換会しゅびょうこうかんかいを始める。腐米改良事業ふまい ちやくしゆに着手。
- 1880年 歴観農話連をつくる。
- 1883年 辞職して帰村。農家経済けいざいを指導する。
- 1885年 山田経済会やまだをつくり、救済事業きゅうさいを開始。
- 1895年 農会をつくり、郡農会長、県農会長となる。
- 1896年 適産調てきさんしらべを始める。
- 1915年 潟上市ほつ（旧昭和町）で没。70歳さい。